

# 令和元年度 第1回桑名市子ども・子育て会議 議事録

令和元年6月5日(水) 13:30～

桑名市役所 5階中会議室

## 1. 開会

(三浦子ども未来局長あいさつ)

ご出席いただきありがとうございます。委員の皆さまには、ご多忙のところ、子ども・子育て会議の委員をお引き受けいただきましたこと、また、日ごろより桑名市の行政、とりわけ保健福祉行政や教育行政にご理解ご協力をたまわり、厚くお礼申し上げます。5月1日より元号が令和となり新しい時代への期待が高まっています。そうした矢先、滋賀県大津市では保育園児を巻き込んだ交通事故、川崎市での殺傷事件と子どもが犠牲となる痛ましい事件が続いております。その背景には生活環境や経済的な問題など複合的な要因が考えられ、社会全体の問題として考えていく必要があります。このような問題を解決するためには、行政だけではなく地域全体による子育て家庭を支援する環境が必要であると改めて感じています。市では子どもが健やかに育ち安心して生み育てられるまちづくりを目指していきたく考えますので、引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

本日は、本年度より新たに委員になられた方が10人おられますので、子ども・子育て支援事業計画の概要や、昨年度実施したニーズ調査、ヒアリング調査などの結果を報告させていただきます。委員の皆さまには計画策定のための忌憚のない意見をいただけますようお願い申し上げます。

[委員の委嘱－委嘱状机上配布]

[委員自己紹介]

秋山委員：三重県子どもNPOサポートセンターの秋山です。桑名市のファミリーサポートセンター事業を委託され運営している。以前からだが、援助会員不足が悩みである。

石川委員：子育てサークルきらにこまるの石川です。2年前に2歳児の子育て中に赤ちゃんが生まれた。その中で2歳児の子ども行ける支援センターは、子どもが少し大きくなったときに行ける所がないと感じ、同年代の子どもと親が集まれるサークルがほしいと思い立ち上げた。

伊藤委員：学童保育連絡協議会の伊藤です。父母運営の学童保育における児童員不足

が課題となっている。

岡田委員：私立小・中学校代表、津田学園小学校校長の岡田です。川崎の事件と同じようスクールバスを運行しているが、子ども安全をどう確保するかが課題である。

加藤委員：私立保育園連盟代表の加藤です。多度で幼保連携型のこども園を運営している。日々子どもたちと格闘しながら地域での子育てを支援している。

近藤（寛）委員：市立保育園連盟の近藤です。安永保育園を運営している。2年前からこども園に移行した。子どもたちにとってメリットのある会議にしていきたい。

西藤委員：桑名商工会議所女性部の西藤です。自身、学童にお世話になりながら子育てをしてきた。企業としてサポートできることを考え、少しでもお役に立てたらいとお考える。

城田委員：食生活改善推進協議会の城田です。男の料理教室や親子料理教室など実施している。昨年は桑名高校の看護科で朝食の欠食や食事のバランスなどの講座を行った。食育を通じた活動でお役に立ちたい。

高橋委員：地域福祉計画推進市民会議の高橋です。市民会議としては障害のある人の余暇活動支援などをやっている。自身としては、親の活動支援をやっている。

谷口委員：名古屋市立大学の谷口です。社会福祉学を専門としており、中でも社会的養護とって何らかの事情で保護者の元で生活できない子どもたちの生活課程に関する研究をしている。名古屋市の子ども・子育て会議の委員もやっている。プライベートでは小学生と保育園児の2人の子どもを夫と二人で育てている。近くに祖父母等がないので、保育園、学童、トワイライトスクール、ファミサポートなど子育て支援に関する社会的資源を利用している。社会とのつながりの中で子育てができると思いと思っている。

早川委員：公募委員の早川です。働きながら子育てをしている。作業療法士としてフリーで仕事をしている。現在は四日市の特別支援学校に勤務している。また、桑名市内の病院で活動している。その他に市内の保育所、学校でコンサルテーションもやっている。ボランティアとして市民活動団体の中でお子さんの親御さんから相談を受けたりしている。

松岡委員：みっくみえ代表の松岡です。20年間、地域における子育て支援を行っている。虐待の未然防止ということで母親を支えて子どもたちに良好な環境を整うよう支援している。地域において母親に寄り添って活動している。

水谷（秀）委員：私立幼稚園協会の水谷です。

水谷（元）委員：社会福祉協議会の水谷です。社会福祉協議会では「大型遊具で遊ぼう」という未就学児を対象としたフリースペースの開放などを実施している。また、公立小中学校の福祉教育への助成など地域住民との交流を通じた福祉の理解促進を支援している。この会議を通じて社協事業の向上につなげていきたい。

諸戸委員：桑名郡市小・中学校長会代表、城南小学校の諸戸です。地域住民、保護者が暖かく見守っていることを実感している。

山本委員：桑名歯科医師会の山本です。学校における歯科検診等を行っている。近年、歯並びの悪い子どもが増加傾向にある。

渡部委員：主任児童委員の渡部です。24人の主任児童委員がそれぞれの地域で、子育てサークル・子育てサロンなど母親を支援している。また、民生委員・児童委員では安心安全見守り訪問事業として生後6か月以上の子どもがいる世帯を訪問して、地域の子育て支援状況を知らせることなどしている。桑名で子育てして良かったと言ってもらえるような会議にしたい。

#### [事務局自己紹介]

#### [委員長・副委員長の選任]

事務局：委員長・副委員長の選任について意見・提案はあるか。

渡部委員：昨年度もこの会議に参加させていただいた。昨年度は次期子ども・子育て支援計画の策定のためのニーズ調査などについて議論をしてきた。そして、今年度はその計画を策定する年にあたり、引き続き議論が必要となることから、一貫性という面からも昨年度までこの会議の委員長を務められた、松岡委員に委員長をお願いしたいと思うがいかがか。

事務局：この提案についていかがか。意義はないか。

〈異議なし〉

事務局：副委員長についてはいかがか。

松岡委員長：昨年度より引き続いて、谷口委員に参画していただいている。谷口委員には昨年度まで副委員長としてサポートしていただいた。また、学識経験者ということからも、できれば谷口委員に継続して副委員長をお願いしたいと

思うがいかがか。

事務局：この提案についていかがか。意義はないか。

〈異議なし〉

[委員長：松岡委員 副委員長：谷口委員に決定]

(松岡委員長あいさつ)

力不足ですが、委員の皆さまに助けをいただいで、この委員会を進めさせていただきたいと思います。現在、保育環境は施策も含めて大きな転換期を迎えています。現場で混乱しているという声も時々聞きますが、子どもたちのための施策であってほしいし、子どもたちが健全に育つ、安心・安全の子育て環境を社会がどのように提供するかという課題を突きつけられているように感じます。制度とか施策以上に子どもたちの目線を当事者の目線として必ず入れていただきたいと思います。野田市の虐待の事件もありましたが、声に出せること声に出せなくても、とても辛い思いをしている子どもたちもいます。子どもたちにとって育ちというものをきちんと保証できるような環境整備というものがとても重要で、保育の現場での様々な状況で、子どもの将来についても影響を及ぼすようなことがありますので、これからはじまる新しい取組もありますが、皆さんも関心を持っていただいで、子どもたちの視点をぶれずに持ってこの会議を進めさせていただきたいと思います。

(谷口副委員長あいさつ)

昨年度に引き続き、委員長を支えていきたいと思います。また、児童福祉が専門ですので、専門的な見地から制度や他市の状況などお伝えできることがあれば良いと思います。

## 2. 議事

### (1) 子ども・子育て会議及び子ども・子育て支援事業計画の概要について

#### ■資料3：子ども・子育て会議及び子ども・子育て支援事業計画の概要について

(事務局が資料3にそって説明)

松岡委員長：次世代育成支援行動計画から引き続き、第1期の子ども・子育て支援事業計画が今年度終わり、来年度から第2期計画がはじまる。5年を1期とする計画であるから、終了の前の年に次の計画を策定する。そして、その前の年に基礎データとなる調査を実施する。という流れなので、今、この会議が

どの位置にあるかは、この資料3でわかると思う。そして、4頁の図にあるようなスケジュールで計画を立てていくことになる。また、この会議の素晴らしいところは、前委員長である中京大学教授の野口典子先生の大変なご尽力で、先生の意向もあって、委員の方々にたくさんの意見をいただこうと分科会形式を取っており、それが第2回、第3回と2回あります。是非、ニーズ調査結果や現計画に目を通した上で、たくさんの意見をいただきたいと思う。特に意見がないようなら次の議題に移る。

(2) 子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果報告について

■冊子：子ども・子育て支援ニーズ調査結果報告書

(事務局が報告書にそって説明)

松岡委員長：この資料についてまだまだ読み込みたいと思われるかもしれないが、今、説明を受けた上でご質問があれば受けたいと思う。

水谷（秀）委員：115頁の放課後児童クラブの利用率のところだが、例えば小学校区別の大和地区の場合、サンプル数が18で33.3%とある。どこまでこの数値を信用したらいいのか疑問がある。気をつけて見る必要があると思う。中学校区別の長島はサンプル数が134で26.9%、これは信頼できると思う。こうした数値のぶれを考慮に入れるべきと思った。

松岡委員長：2013年のデータとの比較で分析がされており、意識等にどのような変化があったかわかりやすく示されている。その変化の背景を分析することが重要である。例えば、利用率が高くなったのは、周知が進んだためであるとか、利用した人が繰り返し利用したとか、数字の変化をみてそれを分析することが重要であると感じている。

(3) 子ども・子育て支援に関するヒアリング調査結果報告について

■資料4：子ども・子育て支援に関するヒアリング・ワークショップの実施結果

(事務局が資料4にそって説明)

松岡委員長：何か質問等はないか。

水谷（秀）委員：レスパイトとはどういう意味か。

事務局：レスパイトとは「休息」という意味で、医療的ケア児を家で世話している家族の負担を軽減するために、子どもを一時的に預かるサービスである。

松岡会員：近隣ではどこの施設が利用できるのか。

事務局：施設がここというようにはご案内できない。対象となる子どもの障害・症状

にもよるが、現在のところ、訪問看護等の訪問支援により家族の要望に対応している。レスパイトについては、一旦入所していただいているからの利用である。精神の施設が少ないのが現状である。

松岡委員長：365日24時間のケアというのは、保護者にとって負担が大きい。そういう意味でも施設によるレスパイトケアは必要であると思う。障害児、医療的ケア児の保護者たちからのSOSを相談で受けたりしているが、それが虐待につながらないよう、地域の人を巻き込んで取り組むのも1つの方法であると思う。

近藤（寛）委員：ヒアリング調査の方法が知りたい。また、何人から聴取したのか知りたい。

事務局：ヒアリング調査の母数については、今、詳細な資料を持ち合わせていないが、例えば、幼稚園・保育園職員であれば、職員数と言うより、市内にある各園にアンケート形式のヒアリングシートを送って、園によって職員一人ひとりが記入したところもあれば、園でまとめて意見を提出したところもあるので、正確な人数が出しにくいものであるが、この資料を最終的にまとめるにあたって、改めて対象数等を追加していきたい。

松岡委員長：アンケートなのですか。

事務局：幼稚園・保育園職員については、記述式のヒアリングシートを用いているし、「キラキラ」利用者、ひとり親家庭保護者、障害児の保護者については直接職員が聞き取りした。

松岡委員長：対象者等の数値を資料に加えること。対象者の選定については担当課が決めたということだが、前回は今回行った対象者、もしくは今回新たに行った対象者はどこか教えてほしい。

事務局：基本的に前回は行った対象者には、今回もほぼ同様に行った。新たに行ったのは、あおむしの会、こども食堂学生ボランティア、学童保育所支援員、医療的ケア児関係者である。

松岡委員長：前回の対象者を基本に、動向を踏まえ対象を追加したということである。B Pプログラム参加者も新規か。

事務局：そうである。

早川委員：ニーズ調査の83頁の「子育てに関する悩みや不安を解消するために求められる相談窓口」の結果をみると、2013年に比べ、専門的な窓口が上っていて、身近な窓口が下がっている。これは信頼できる相談相手が求められていると読み取った。ヒアリング結果の15頁をみると、支援する側の幼稚園や保育園

の先生も悩んでいることがわかる。35頁の学童の支援員のヒアリング結果をみると、経験年数の多い支援員でも悩んでいることが読み取れる。こうしたことから、支援者への支援も必要であると感じた。

松岡委員長：貴重な意見である。預ける側と預かる側の信頼関係が築かれた上での話にこそ意味がある。相談をする者に支援者が寄り添い、支援者を支える状況を作っていくことが重要である。他にないか。

石川委員：幼稚園の先生の思いや、もともと幼稚園で働いていたことがあるので、両方の思いで、今、子育てをされていて思うのが、どうやって幼稚園に入るまでの子育てをしたら良いかと言うことがわからない。例えば、箸の持ち方や両足跳びをするということについて、何か教えなければならない、そうするとお金をかけて習い事をさせた方が良いのかとか、自分が子育てをされていてどこか違う気がして、先生の気持ちわかるし、どうしたら良いのか悩んでいる。公立保育園を利用しているが、年少がないので、友だち関係ができていくのか、親がどう関わったら良いのかなどが本当にわからないので、そういった支援があると良いと思う。

秋山委員：ファミリーサポートセンターで子育て養成講座をしているが、若いお母さんたちの口コミですごく増えていて、援助会員は増えないが依頼会員、託児に限りがあるから断っているしただが、4日間の講座をお子さんと聞きに来て、子どももはじめて親から離れて託児に入って成長したし、自分も母親としていろいろなことがわかったと安心したと、とても良い事業である。ファミリーサポートセンターではなく、子育て支援として予算を付けてもらわないと託児が間に合わない。必要な情報がたくさん入っている。ファミリーサポートセンターとしては、本当は、もっとおばさまたちに来てほしい。しかし、おばさまたちは60歳を過ぎてもまだまだ仕事がある。そのうちに孫の世話や介護が入ってくるので援助会員が増えない。現在、ファミリーサポートセンターは700人の会員がいるが、そのうち依頼会員が600人を占めている。わずか数十人の人がフル回転で援助しているのが現状であり、成立しないところまできている。支援者を増やすのが課題である。お母さんたちが子どもを持ちながら支援するというのも都会の方にはあるが、専業主婦なら良いが、働かなければならない場合は無理である。これからファミリーサポートセンターはどこに向かって行けば良いかわからない。

松岡委員長：どのように預かりの担い手を養成していくかが課題である。私は菰野町にもお邪魔しているが、そこでは、子育てをするお母さんを育成している。

ママさんたちがお互いにといった取組もやっている。様々なお母さんたちの力を活用している。安全の配慮も最大限していく必要がある。それから、入園前の子育ての仕方は、今の親御さんたちが小さな子どもたちを見る機会がほとんどないという背景がある。桑名市では中高生と乳幼児のふれあい事業を積極的に進めているのは良いことである。中学生の時に赤ちゃんを抱っこするということはとてもインパクトのある経験なので続けてほしい。親を育てるという役割を社会がしっかり担うべきである。

谷口副委員長：保育士さんたちへのヒアリングの中で、事故防止のための補助金を増やしてほしいとか、待遇の面で改善を望んでいるなど現場から出ていることなどと併せて、この10月から3歳以上の保育料の無償化が展開されるが、保育の質の確保をどのようにしていくのかとか、安全性の問題、保護者が安心して、ともに子育てをできる場としての園の保証をどのようにしていくのか、桑名市としてどう考えているのかを聞きたい。制度的なこととして、保育料の無償化にあたって、保育料は累進的に所得によって決定しているので、高所得層ほど得をするという設計になっている。一番問題なのは、食料費の中で主食費は実費負担になっているが、副食代が今まで保育料に含まれていた者が実費負担になると保育料が低い、いわゆる所得の低い家庭は実費負担となって逆転現象が起こってしまうことが制度上起こり得ることに対して、桑名市はどのように対応するの教えていただきたい。

事務局：1点目に関しては、県と協議しながら質を確保する方策を検討していきたいと考える。無償化に関しては、今後、各施設に周知を図るとともに市民にも8月号の広報等を通じて周知を行う。2点目の給食費については、無償化になっても所得の制限等で逆転現象が起こらないようにしていく。

水谷（秀）委員：食料費については6月議会で審議されるのか。

事務局：食料費も含めて制度全体を9月議会に上程する予定である。

水谷（秀）委員：9月では新制度開始の間際なので慎重に審議を進めてほしい。

谷口副委員長：待機児童がいることを念頭に進めてほしい。

松岡委員長：無償化になったから預けるという人が増えるのか否か、市の見通しは。

事務局：一定数は伸びると考えているが、具体的な動向はわからないのが現状である。

松岡委員長：他にないか。なければ次に進みたい。



#### 4. その他

■資料5：分科会の希望について  
(事務局が資料5にそって説明)

■資料6：公立保育所の定員について  
(事務局が資料6にそって説明)

#### 5. 閉会

##### <資料>

- 資料1 桑名市子ども・子育て会議委員会名簿（令和元年度～）
- 資料2 桑名市子ども・子育て会議事務局名簿（令和元年度～）
- 資料3 子ども・子育て会議及び子ども・子育て支援事業計画の概要について
- 資料4 子ども・子育て支援に関するヒアリング・ワークショップの実施結果（改訂版）
- 資料5 分科会の希望について
- 資料6 公立保育所の定員について

以上